

6 近代(明治、大正、昭和)

約 270 年間続いた江戸幕府が倒れ、明治元年（1868）に明治新政府が誕生します。政府は、「五箇条の御誓文」^{ごせいもん}を発表して、新しい政治の方針を示しました。同時に、庶民に対しては、江戸幕府と同じように、一揆やキリスト教を禁止する「五榜の掲示」^{ごぼう}を各地に立てました。四民平等、地租改正、徴兵制、学制と、諸改革は次々と実施されました。明治維新はいままでにない大変革でしたが、わたしたち舞鶴市民にとってはさらに鎮守府設置という大変革がまっていた。舞鶴を他の都市とちがう歩みをさせたこの近代についてみていきましょう。

“舞鶴”という地名のはじまり

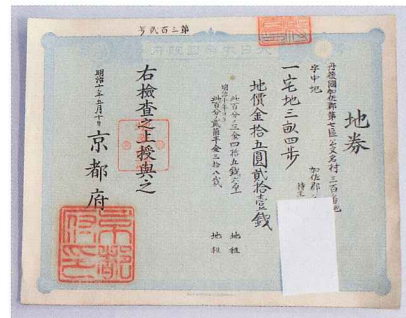
明治 2 年（1869）、版籍奉還^{はんせきほうかん}の後、太政官^{たじょうかん}より「田辺」は山城や紀伊にもあってまぎらわしいので改名するように命令があり、田辺城の別名であった「舞鶴城」から「舞鶴」という地名がうまれました。

目まぐるしく変わる行政組織

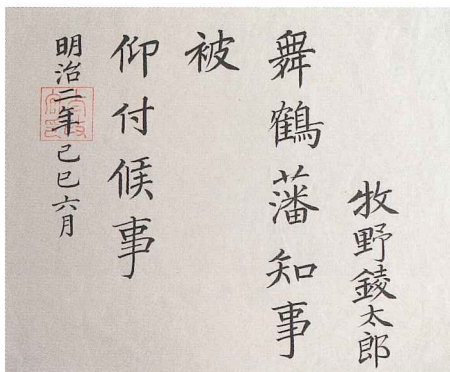
江戸時代、田辺藩として統治されていた地域は、明治維新後まず舞鶴藩となり、明治 4 年（1872）7 月廃藩置県により舞鶴県となりました。しかし、同 11 月には豊岡県が誕生し、さらに明治 9 年には京都府となりました。

この頃の人口は明治 9 年の現舞鶴市域で約 41,000 人、江戸時代とほぼ変わらないものです。

（円）への切り替え、土地売買の自由などがどんどん打ち出されました。翌 6 年には地租改正条例が布告されました。今まで収穫量に応じて米で納められていた年貢が、土地の面積や地目によって決められた額の金銭を納税するようになったのです。



地 券



舞鶴藩知事任命書

明治 5 年前後の大変革

舞鶴の村々の明治維新は明治 5 年ごろから一気に進みます。この年は戸籍の編製、太陽暦の採用、学制発布、徴兵制施行、新貨幣

次々と開校される“小学校”

明治 4 年廃藩置県によって、藩校明倫館は廃止されていました。教育機関としては、寺子屋しかなかったのです。明治 5 年学制が発布されると、その設立資金運営資金は民間でまかなうとされたにもかかわらず、加佐郡内には次々と小学校ができました。

まず、明治 6 年に 16 校が開校しました。その後、明治 9 年までに 12 校が順次開校しました。お寺や民家を利用してはじまった学校がほとんどですが、この時、開校した学校が現在の小学校の母体となっています。

なお、高等教育機関は明治 42 年に高等女学校、大正 11 年（1922）に舞鶴中学校が開校しました。



教科書

養 蚕

養蚕は江戸時代より行われていましたが、明治政府の殖産興業政策を追い風に、さかんに行われました。舞鶴では、明治11年に審致社による「舞鶴製糸場」が設立されました。明治29年には綾部^{ぐんぜ}に郡是製糸株式会社が設立されました。また、明治40年には郡立蚕業学校（現大江高校）が開校しました。

これら製糸業の活況を得て、村々では各戸で蚕を飼いました。

活況をみせる海運

江戸時代に盛んになったいわゆる北前船は、明治になると、洋式の帆や船体に改良した和洋折衷船としてますますさかんになりました。これらの船はただ荷物を運ぶだけでなく、港で買い付けて、次の湊で売るという商売をしていました。しかし、明治後期になると、鉄道の発達で陸上での大量輸送が可能になったことや、電信の発達で全国の物価が平均化してきたことなどから姿を消していきました。



引 札

舞鶴と軍港

政府は「富国強兵」をスローガンに欧米に並ぶ強国として日本を育てようと産業と軍事を柱に急速な近代化をめざしました。その中で、近代舞鶴の歴史は海軍との関係をぬきに考えることはできません。

日本の近代化とともに大陸への進出を企てた政府は、清国・ロシアを意識して軍備の増強に努めました。明治19年（1886）、海軍当局は舞鶴湾の測量と視察を行い、同湾が無比の良港であると確認し、第4海軍区（島根県～秋田県の海岸と海面）における鎮守府（海軍の役所）を舞鶴に設置することを決めました。設置のために、浜・北吸・余部下・余部上・長浜・佐波賀・平などの土地を買収し、明治34年（1901）余部下に鎮守府が開庁しました。

鎮守府は、戦艦三笠の他19隻の艦艇、海兵団、水雷団、海軍工廠、海軍病院などをもち、日本海側唯一の軍港として、日露戦争をはじめそれ以後つぎつぎに勃発する戦争の重要な軍事基地になりました。同時に舞鶴は要塞地帯区域に指定され、住民の日常生活にはさまざまな禁止・制限が加えられたのです。



鎮 守 府

東地域と西地域 “それぞれの道”

江戸時代、舞鶴湾を囲み、田辺藩というひとつの共同体地域として発展してきた舞鶴ですが、軍港設置により東地域と西地域はそれぞれ性格の異なる都市として発達してゆきます。

東地域は、軍港設置にともない多くの海軍軍人・軍属・海軍工廠工員およびその家族が移住してきました。そのため、新たな住宅、商店、娯楽機関が必要となり浜・余部下・余部上を中心に新市街地が造成されました。明治36年(1903)碁盤目状に区画した浜の市街地は、東西に走る道路に三笠や富士など明治時代の軍艦名がつけられ、ここに全国から商人が集まり、にぎわいました。

西地域は、商工業を中心とする産業港湾都市として、その繁栄を目ざし港の修復を行いました。昭和に入り、樺太、朝鮮、大連、天津、北海道間にそれぞれ定期航路を持つ商港となっていました。



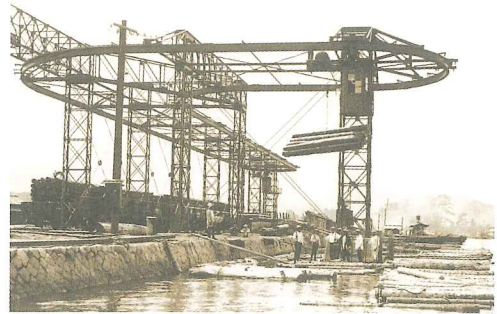
三条通り(大正の頃)



西港修築工事

鉄道の発達

明治5年9月、新橋横浜間に鉄道が開通しました。鉄道は日本の文明開化の象徴でした。舞鶴は明治19年(1886)に鎮守府がおかれることに決まったため、それ以後早期に京阪神と舞鶴を結ぶ鉄道の設置が推進されました。



海舞鶴駅のテルファー

明治32年(1899)京都園部間が開通し、同33年福知山大阪間を結ぶ阪鶴鉄道が開通しました。鎮守府が開庁したときには、舞鶴に鉄道が乗り入れていない状態でした。馬車や船が交通手段でした。明治37年11月、日露戦争の最中に福知山新舞鶴間が開通し、同43年(1910)園部綾部間が開通しました。さらに、小浜線が開通したのは大正7年(1918)、宮津線が開通したのは大正13年でした。

この鉄道は、海舞鶴駅から鉄道連絡船がでて、山陰線や北陸線の未開通部分を補いました。さらには昭和元年(1926)ウラジオストックと舞鶴を結ぶ航路が開通し、舞鶴は人や物資が行き交う十字路となりました。

青い目の人形

昭和2年(1927)日米間の摩擦解消のために、アメリカから青い目の人形が12,739体送られました。この内、舞鶴には11体の人形がやってきました。日本からはこの返礼として日本人形を贈りました。その後、第二次世界大戦でアメリカと戦うことになり、ほとん



青い目の人形

どの人形は失われましたが、舞鶴幼稚園に送られた“ベティ・メイ”は生き残り、全国で残った300体余りのうちの1体となっています。

近代の娯楽・教養

江戸時代は、祭や村の代参で行く寺社参拝が大きな娯楽でしたが、明治になると様々な娯楽が現れはじめました。

新聞は明治 22 年 (1890)『丹州時報』明治 34 年『舞鶴新報』などが発刊されました。明治 31 年に西地区に劇場ができました。その後、東西両市街地にも次々と建設されました。この当時、寺院以外に公共の会場がなかったため、劇場だけでなく招魂祭や慰安会場としても使われました。映画館も大正時代から盛況でした。昭和 16 年には、東地区 5 館、西地区 2 館ありましたが、昭和 19 年戦火が激しくなると閉館におこまれました。

スポーツ界では昭和 11 年に舞鶴からはじめて大江季雄選手がベルリンオリンピックに出場し、棒高跳びで 3 位に入賞しました。帰国後、2 位の西田修平選手とメダルを分かちあった“友情のメダル”の逸話は有名です。

市制施行

明治 22 年、町村制施行によって、加佐郡内は 1 町 24 ケ村 (現舞鶴市域 1 町 17 ケ村) の行政組織ができました。鎮守府が開庁すると、人口の増加にともなって新舞鶴町、中舞鶴町が誕生しました。そして、昭和 13 年に周辺地域が吸収合併される形で東舞鶴市と舞鶴市が誕生し、現市域は 2 市 8 村になりました。

戦時体制へ

第一次世界大戦のあと、各国の軍縮が決議され、その影響で大正 12 年、舞鶴は鎮守府から要港部へ格下げとなりました。その頃人口も 7 万人に達しようとしていましたが、要港部となったことで約 1 割も減っていました。昭和恐慌や関東大震災など社会情勢は不穏で、日本は軍備を増強して、大陸への進出をねらっていました。昭和 12 年ついに日中全面戦争となり、舞鶴は再び鎮守府として復活しました。海軍施設は拡張され、海軍工廠での生産もさかんになり、東門・西門附近は出勤

する自転車で埋め尽くされたといわれています。昭和 16 年、小学校は国民学校に改められました。アメリカとの戦争がはじまり、食糧や衣料の配給、出征兵士の見送りなど、戦争一色になっていきました。

東西舞鶴の合併

昭和 18 年 5 月 27 日に軍部の強い要請で東舞鶴市と舞鶴市が合併して舞鶴市ができました。市役所は現在の中総会館に置かれ、東西に支所が置かれました。このときの人口は 86,051 人、マイツルを図案化した徽章が一般から公募され採用されました。なお、現在の加佐地区はこの時には合併からはずれました。



市 徽 章

舞鶴空襲

昭和 20 年、舞鶴海軍工廠では艦船をはじめ回天などの特殊兵器を生産しており、その従業員数は、学徒動員による生徒や女子挺身隊などを含め、4 万人にも達していました。

7 月 29 日、海軍工廠は空襲を受け工員をはじめ、動員学徒、女子挺身隊など 97 名が死亡、百数十名が重軽傷を負いました。翌 30 日の湾内艦船空襲では、乗組員など死者 83 名、負傷者 247 名にのぼり、ほとんどの艦船が撃沈されたのです。しかし、空襲の被害は軍事機密に属するということで公表されませんでした。

16 日後、昭和 20 年 (1945) 8 月 15 日、日本はポツダム宣言を受諾し、降伏しました。

舞鶴の戦後

敗戦により鎮守府や海軍工廠は解体し多くの人が生活基盤を失いました。

昭和 25 年、市民の努力により『旧軍港都市

転換法』が制定されました。この法律は、「旧軍港市を平和産業港湾都市に転換することにより、平和日本実現の理想達成に寄与すること」をその目的にうたい、旧軍用の土地・施設その他の財産は新しい都市計画に活用することを、その内容としています。この法律は、舞鶴の復興に大きな役割を果たしました。

引揚港“舞鶴”

昭和20年8月15日に日本が敗戦すると、中国などに残された邦人は軍人・民間人合わせて660万人以上といわれていました。その人々の引揚港として全国10地域が選定され、舞鶴はその一つとなりました。第1船の雲仙丸を昭和20年10月7日に受け入れてから、最終船の白山丸を昭和33年9月に受け入れるまで、13年間に66万人余りを迎え入れました。引揚とシベリア抑留の歴史を語り継ぐために、昭和63年、平の引揚桟橋のある地に“引揚記念館”が開館しました。



引揚記念館

加佐町の合併

戦後、加佐地区は加佐町をつくり昭和32年5月27日の市制記念日に舞鶴市と合併し、現在の舞鶴市域が確定しました。これによって、古来“加佐郡”でまとまってきた地域は、一部、宮津市と福知山市になったものの、ほぼ舞鶴市で統合されました。

明治以後それぞれに発展した東西市街地ですが、同市内に城下町も海軍施設も併せ持ち、また、大浦・由良川地域の自然や特産物などさまざまな文化遺産を発信していく町として現在に至っています。

7 おわりにあたって

舞鶴市郷土資料館

舞鶴市郷土資料館は、昭和48年の桑飼下縄文遺跡発掘調査を契機として、郷土の文化的遺産を保存・展示し、市民の教育文化の向上に資するための施設として、開館しました。

業務内容は、次の通りです。

- ① 文化財・文化資料等の収集・保存及び展示並びに収集・保存等についての調査及び研究に関すること。
- ② 市民の文化財愛護の啓発に関すること。

(『舞鶴市郷土資料館条例』より)

舞鶴市郷土資料館条例にそって、普及活動として、常設展示のほかに、企画展や講演会などのイベント、DVD鑑賞や図書の閲覧、あるいは図書室を使った同好会活動の支援などを行っています。

また、市民の宝物である郷土資料の収集や保管を行い、資料の活用を計画しています。

収蔵資料としては、糸井文庫、牧野文庫、井上文庫、^{たんのぶざね}丹信実氏冠島資料、その他庄屋文書など約50,000点を保有しています。

文化財保護委員会

文化財保護委員会は教育委員会の附属機関として設置されており、定員は13名となっています。舞鶴市指定文化財の指定に関する諮問や、文化財の現況確認、調査などにあたり、また、各委員が郷土資料の発掘や研究をしています。

舞鶴市の基本計画にも謳われているように、生涯にわたる学びの環境づくりは住民の生活満足度や地域力向上のかぎとなるものであり、今後とも市民のみなさまとともに、郷土資料館を充実させ、豊かな文化行政を実施していきたいと考えています。市民のみなさまの一層のご協力と、ご援助をお願いする次第です。